

グループ名	心心の会					
研究テーマ	特別の教科道徳の授業力を磨く					
分 野	<p>授業力向上</p> <p>(対象校種) 小学校</p> <p>(対象教科) 小学校・特別の教科 道徳</p>					
研究のねらい	授業づくりを通して、特別の教科道徳の特質にあった指導はどうあればいいのかを探る。					
研究・活動の概要						
1 道徳の特質を踏まえた授業づくり						
<p>①指導案づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 焦点化されたねらいの設定、教材分析 ・ 発問構成の工夫 ・ 問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫 						
<p>②授業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業記録を基にした授業の振り返り ・ 成果の確認と課題の共有 改善方法の検討 						
2 道徳科の特質の理解						
<p>①解説の内容の理解</p> <p>②提供された授業の意義付け</p>						
3 文献研究						
成果と課題						
成果						
<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教師で指導案を基に考え議論し教材分析を行ったことで、ねらいや発問などを吟味できた。 ・授業者が授業を録画して、皆で振り返りをしたことで、より深い検討会ができた。 ・キーワードは何かを吟味し、教師の授業の方向性を確実なものにできた。 						
課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・中心発問から、ねらいへ深化させる部分の揺さぶり方や深め方を更に工夫していきたい。 ・指導と評価の在り方について今後も検討していきたい。 						
構成員(10)名						
氏 名	所属・職名	氏 名	所属・職名			
須藤 洋	新田小学校・校長	土生 吉伸	八乙女小学校・教諭			
石川 裕美	教育相談課・主幹	大宮 健	川平小学校・教諭			
及川 俊	古城小学校・校長	千葉 梨絵	東仙台小学校・教諭			
我妻 美知子	袋原小学校・教頭	吉田 千真	芦口小学校・教諭			
石山 宏美	田子小学校・教諭	(代表)阿部 千幸	住吉台小学校・校長			

グループ名	体育の授業を考える会		
研究テーマ	運動の楽しさや学びを大切にした体育の授業作りについて ～ゴール型ゲームの実践を通して～		
分 野	<p>授業力向上</p> <p>(対象校種) 小学校 (対象教科) 体育</p>		
研究のねらい	ゴール型ゲームの授業実践を通して、児童に運動の楽しさを味わわせたり、学びを深めさせたりする体育学習の在り方を探る。		
研究・活動の概要	<p>これまでの研究では、ボール運動系の領域において指導者がゲームの特性を整理、理解することで、児童が何を学び、どう楽しむのかが明確になるということが見えてきた。今年度は、ゴール型ゲームの各単元に共通する特性を整理し、児童の課題解決の方向性を明確にしたいと考えた。</p> <p>1 運動の特性と発達段階に応じた目当て（課題）の設定とその解決の活動内容を構造化する。 2 宮城県サッカー協会の巡回指導を受ける。 3 作成した系統表、評価規準を基に、単元の指導計画を検討する。 ※外部講師に系統表、評価規準、指導計画についての助言をいただく。 4 実践・検証を基に見直しを図りまとめる。 ・実践：長町南小学校 5年生 単元名「サッカー」</p>		
成果と課題	<p>(成果) 教師がサッカーの運動特性を正しく捉えたことで、児童が何を行い、何を楽しみ、何を学ぶのかが明確になった。⇒児童は安心して夢中になって運動することができ、そのことが主体的・対話的で深い学びに繋がっていたということが分かった。</p> <p>(課題) 今年度は複数学年、複数単元の実践を行うことができなかった。今後は今年度の研究で明らかになったことが、他の学年や他のゴール型の単元ではどうなのか、検証していく必要がある。</p>		
構成員(6)名			
氏 名	所属・職名	氏 名	所属・職名
高橋 義肖 高橋 正行 (代表) 池田 哲平 佐藤 裕子	鶴巻小学校・校長 加茂小学校・校長 長町南小学校・教諭 柳生小学校・教諭	鈴木 慎吾 永井 崇博	台原小学校・教諭 郡山小学校・教諭

グループ名	HONKA 小中連携推進グループ		
研究テーマ	中学校区における効果的な連携の在り方を探る ～小中接続を視野に入れた外国語教育の充実を目指して～		
分 野	外国語教育 小中連携 (対象校種) 小学校／中学校 (対象教科) 外国語活動・外国語科		
研究のねらい	様々な外国語指導教材を使った指導方法の研究及び授業づくり実践に各自が取り組むことにより、小学校教員の外国語指導力の向上と円滑な小中への接続、当該学区の外国語教育の充実を目指す。		
研究・活動の概要	<p>○PDCA サイクル理論に基づく実践研究</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童及び教師の意識調査を実施し分析をする。 (2) 実践内容を検討協議する。 (3) 授業づくり実践を行い検討する。 (4) 教材の開発と共有を行う。 		
成果と課題			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の学習意欲の向上 ○小学校教員の外国語指導に対する不安感の軽減 ○小中連携の推進 		
構成員(11)名			
氏 名	所属・職名	氏 名	所属・職名
(代表)國井 あつ子 山口 菜美子 Alice Rourke 高橋 郁子 佐藤 祐樹 Roley Layson	栗生小学校・教諭 広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・A L T 広瀬小学校・教諭 折立中学校・教諭 折立中学校・A L T	山口 亜紗美 櫛田 美由紀 Eric Provost 草野 万葉 佐々木 ゆり愛	折立小学校・教諭 錦ヶ丘中学校・教諭 錦ヶ丘中学校・A L T 錦ヶ丘小学校・教諭 愛子小学校・教諭

グループ名	和 of KUROMATSU					
研究テーマ	生き生きとしたコミュニケーションが展開される外国語・外国語活動を目指して					
分 野	<p>授業力向上</p> <p>(対象校種) 小学校</p> <p>(対象教科) 外国語・外国語活動</p>					
研究のねらい	各 Unit 終末におけるコミュニケーション活動で、豊かな言語活動を行うことができるようにするために、デジタル教材の活用の仕方や ALT との効果的な連携の方法を探る。					
研究の活動の概要						
<p>○英語絵本やデジタル教材の授業での効果的な活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 「NEW HORIZON Elementary」Unit5 の教材研究を通して、児童が受け身になるのではなく、アクティブに考えられるような指導過程を吟味した。 <p>○ALT との効果的な連携の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 低学年児童が意欲的に取り組めるような授業実践のやり方を考えた。 						
成果と課題						
<p>○絶滅危惧種を扱った絵本 (Panda Bear, Panda Bear, What Do You See?) を教科書と関連させて扱うことによって、教科書には載っていない動物にも目を向けさせることができ、興味・関心を高めることができた。(絵本を吟味して使用することは有効であることが分かった。)</p> <p>○教科書に載っているものだけではなく、自分たちの身近にいる生き物についても目を向けさせ、自分たちで色々想像したり考えさせたりすることができた。</p> <p>(他の教科とも関連付けられることが分かった。)</p> <p>○タブレットを活用することによって、絵を描くことが不得手な児童もプレゼンテーションの資料を簡単に作ることができた。</p> <p>○低学年児童にとって、ALT と活動することは外国語を話すことの大きな動機付けになることが分かった。</p> <p>●高学年に書く活動が入ってきたことで、学習活動に時間がかかる場合がある。</p> <p>●ALT との打ち合わせの時間の確保が難しい時があった。</p>						
構成員(6)名						
氏 名	所属・職名	氏 名	所属・職名			
(代表) 岡本 由起 熊谷 礼子 笠間 彩花 長谷川 拓哉	黒松小学校・教諭 黒松小学校・校長 黒松小学校・教諭 黒松小学校・教諭	中村 豪志 小池 鼎志	黒松小学校・教諭 黒松小学校・教諭			

グループ名	Hi-society										
研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的な「情報活用能力」の育成について ・ICT 機器の各教科における効果的な活用について 										
分 野	<p>授業力向上</p> <p>(対象校種) 中学校 (対象教科) 9 教科</p>										
研究のねらい	<p>平成 29 年度改訂の学習指導要領で学習の基盤となる資質・能力として定義された「情報活用能力」を各教科でどのように育成するのか、また同指導要領で情報活用能力育成に必要不可欠であるとされた ICT 機器の各教科における活用方法などを研究し、まとめることで令和 3 年度から実施される学習指導要領施行のための準備（先行研究）を行う。</p>										
研究・活動の概要	<p>○GIGA スクール構想の実現に向け、ICT 機器を活用した授業改善の方法について検討した。</p> <p>○各教科において、各教科の特性を生かして、情報活用能力を育成する授業について検討し、数多くの授業実践を行った。</p> <p>○先行研究校として、数多くの視察団に授業実践を紹介することで、GIGA スクール構想の実現に向け努力した。</p>										
成果と課題	<p>《成果》</p> <p>○GIGA スクール構想に向けて、しっかりと先行研究ができた。</p> <p>○教科の特性に応じた情報活用能力の育成に寄与した授業構想を実践することができた。</p> <p>《課題》</p> <p>○新型コロナウイルス感染症により、当初予定していた校内研修会等を実施することができなかった。</p>										
構成員(6)名	<table border="1"> <thead> <tr> <th>氏 名</th> <th>所属・職名</th> <th>氏 名</th> <th>所属・職名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(代表) 斎藤 純 鈴木 康洋 山口 菜美子 小野 修平</td> <td>広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭</td> <td>小笠原 駿 福井 菜月</td> <td>広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭</td> </tr> </tbody> </table>			氏 名	所属・職名	氏 名	所属・職名	(代表) 斎藤 純 鈴木 康洋 山口 菜美子 小野 修平	広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭	小笠原 駿 福井 菜月	広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭
氏 名	所属・職名	氏 名	所属・職名								
(代表) 斎藤 純 鈴木 康洋 山口 菜美子 小野 修平	広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭	小笠原 駿 福井 菜月	広瀬中学校・教諭 広瀬中学校・教諭								